

患者さんへの説明文

1 研究題名

パーキンソン症候群における脳血流 SPECT についての検討

2 研究の目的

パーキンソン病は、パーキンソニズム（筋強剛、ふるえ、動作緩慢、転びやすさ）といわれる運動症状を認め、進行性の経過をたどる神経難病の一つです。パーキンソン病を含め、パーキンソン病のような症状をきたす疾患の総称をパーキンソン症候群といい、パーキンソン病のほか、進行性核上性麻痺、多系統萎縮症、大脳皮質基底核変性症などがあげられます。

パーキンソン症候群に含まれる神経変性疾患は、いずれもパーキンソニズムを認め、壮年期での発症が多いことから、特に発症早期には区別が難しいことが少なくありません。しかし、これらの疾患は使用できる薬剤や予後が大きく異なり、早期に正しい診断をして適切な治療を行っていくことが求められます。

脳血流 SPECT (single photon emission computed tomography) は、脳機能画像といわれる種類の画像検査の一つで、脳の血流量を定量的に評価し、脳血管障害や認知症、パーキンソン症候群などの神経変性疾患の日常診療でしばしば用いられます。当科では 99mTc-ethyl cysteinate dimer (ECD) を用いた脳血流 SPECT を行うことが多いです。

本研究は、パーキンソン症候群の発症早期の診断において脳血流 SPECT での脳の各領域での血流量の定量評価の有用性を検証すること、それぞれの疾患において臨床経過に伴い脳の各領域での血流量がどのように変化していくのかについて明らかにすることを目的としています。

3 研究の対象

2015年1月1日～2023年12月31日までに当科に入院されたパーキンソン症候群（パーキンソン病，多系統萎縮症，進行性核上性麻痺，大脳皮質基底核変性症など）の患者さんで，診療目的に脳血流SPECTを施行された方が対象になります．また，対照群として，上記期間に当科に入院し，診療目的にECD-SPECTを施行され中枢神経疾患が否定された方も対象となります．

4 研究の方法

当科に入院したパーキンソン症候群の患者および対照群の ^{99m}Tc - ECD-SPECT の結果から，脳の各領域の血流量の定量値（regional cerebral blood flow, rCBF）を求め，それをもとに血流量の左右差を評価したり，罹病期間や臨床病期分類との関連性を検討します．該当者のそのほかの診療情報（年齢，性別，病歴，診察所見，神経心理学的検査，MRI などの画像検査，病理学的検査）も使用する可能性があります．いずれの指標も，過去の診療記録を参考に抽出するもので，この研究のために検査を追加されることはありません．

5 患者さん等の負担や危険性の有無

診療上の必要があって行われた検査結果や病歴などの診療情報のみを解析するため，研究のために生じる患者さん自身の負担や危険性はありません．

6 人権尊重について

研究は東京通信病院倫理審査委員会の承認を得て行われます．個人を特定できる情報は使用されません．学術論文や学会で公表する場合でも，氏名や患者番号など，個人が特定できる情報は削除され，患者さんの個人情報（プライバシー）は厳重に守られます．

医学の進歩に欠くことのできない学術活動ですが，患者さんには，ご自身の診療情報が使

用されることを拒否する権利があります。研究協力を拒否された場合でも、当科の診療上、治療などで不利益を被ることはありません。

7 研究者の所属，氏名，連絡先等

東京通信病院神経内科 中元ふみ子，椎尾康

〒102-8798 東京都千代田区富士見2-14-23

TEL 03-5214-7111（代表）